

2020年秋キューバ訪問団

実施見送り(延期)のお知らせ

CUBAPON は例年、キューバへの平和友好訪問団を実施し、アメリカルートではない真実のキューバを見聞し日本に報告する活動を継続して取り組んできました。

今年も11月下旬出発で「2020年秋訪問団」を計画し、CUBAPON ニュース (No.60) でご案内してきましたが、今般のコロナウイルス禍により欠航していたエアカナダは9月上旬、キューバへのフライトを再開はしたものの、視察にあたってさまざまな制約が生じることが予想されることから、「2020年秋キューバ友好訪問団」の実施を見送ることとします。

CUBAPON の友好訪問の活動は、アメリカによる経済的・政治的封鎖攻撃下で生存と尊厳をかけた生き続けているキューバへの連帯の活動で、現地に出向くことを第一の意義として、1993年から27年間継続をしてきています。

今回は残念ながら渡航を断念せざるを得ませんが、2021年秋(11月下旬ごろ) 催行で、再度、計画していきたいと考えています。

次回催行が具体化し次第、追ってご案内いたします。

2021 秋訪問団(11月下旬) 催行に向け準備



【ご案内】

福島のローカル紙「福島民友」の元記者、紺野滋氏が2017年4月、青年の島に福島出身の移民の足跡を訪ねる旅を単独で敢行してから3年目。待たれていた著書が完成しました。

上河よしこさんの家族である半沢ファミリーの歴史を中心に、入植した頃のこと、敵性外国人として戦時中に味わった苦難、ふるさとへの想いなど、非常に興味深い一冊です。

ご希望の方には実費でお送りしますので、CUBAPON 事務局までご一報ください(03-3268-4387)

※CUBAPON は紺野さんの「訪ねる旅」をサポートしました。



友好の家が着々と！

青年の島から嬉しいお便り

建立中の「友好の家」とは、クバボン前事務局長(松矢文雄さん・故人)が遺言で残された基金で青年の島・日系人協会へ寄贈されているもの。現在、元事務局長(君島一宇さん)が遺志を共有しポートされています。

材料の搬入や、クラスター発生で外出規制などもあり、工事が遅れているとは言うものの、壁や間取りのブロックが着々と積みあがっている様子がわかります。

完成の暁には、ぜひ島を訪ね、一緒に喜び合いたいですね！

「知られざる福島移民」

ページ数 358 頁
ソフトカバー

- 価格 1600 円+税
- 送料 送付後、実費で請求書と振込口座をご案内します。

パンデミックに立ち向かうキューバ

キューバのコロナウイルス禍の状況は日本とは真逆で、予防医学が徹底しており、きめの細かい検査に基づいた予防措置と、地域・ブロックごとの段階的な対策で蔓延を防いでいます。キューバは豊かではありませんが、医療は「金銭」にカウントされる臨床医学とは異なり、「命」優先の予防医学の考え方で。

その一方で、キューバの医療チームは中南米をはじめヨーロッパ、アジア、中東へ医療支援活動に出かけ、連帯の旗を高く掲げた活動をしています。かつて、南アフリカのマンデラ大統領は「キューバに支援を求めて断られた国があったらどうか」と述べた通り、社会体制や主義主張を問わず、手を差し伸べています。

米国のトランプ大統領はこうしたキューバの活動を非難し、さかんに侮辱的な言葉を浴びせていますが、こうしたことは米国の利己主義をますます醜く際立たせ、キューバの人道主義への評価を高める以外の何物でもありません。



左：トリノ（イタリア）の代表的な建物モーレ・アントネリアーナにライトアップされた『ありがとうキューバ』の文字

下：キューバ医療支援団が国旗を先頭に向かう先ではどこでも大きな拍手が巻き起こる（トリノ）



世界でコロナウイルスと闘っているキューバ医療支援団

2020年8月18日現在



期待されるキューバ製ワクチン「ソベラナ01」

キューバは米国政府は、米国の経済封鎖によって医薬品の輸入が困難なことから、長年、医療技術や治療薬を自国開発し、独自のバイオテクノロジー分野に力を注いできました。世界的に名高いキューバの製薬技術は、皮肉にも米国が育てたあげたと言えるでしょう。

現在、「ソベラナ01」（意味は「主権」）と名付けられた抗コロナウイルスワクチンの研究が進められ、臨床試験の段階に入っています。

試験は、8月24日から19歳から80歳までの676人を対象にフィンレイ研究所で行われ、結果が待たれています。





いま、中南米では



中南米情勢が緊迫しています。CUBAPONはキューバ連帯の旗を掲げると同様に、中南米の人民の闘いと状況を発信します。

「EL PUEBLO UNIDO JAMAS SERA VENCIDO！」チリの闘いで生まれた歌、「不屈の民」の歌いだしのこの言葉は、「団結した人民は決して打ち負かされることはない」という意味です。

今、中南米の各地で毎日この言葉が叫ばれ、拳を挙げて人々が立ち上がっています。

相次ぐ虐殺の中でーコロンビア

9月9日夜、コロンビアの首都ボゴタの路上で警官2人によりスタンガンで繰り返し電気ショックを加えられた弁護士ハビエル・オールドニェス氏が死亡したことから巻き起こった抗議行動で10人を超える死者と500人以上の負傷者が出ています。

コロンビアではこれまでも農村を中心にパラミリタル（準軍組織）や麻薬カルテルによる「虐殺」が相次いでおり、今年に入って50件以上の虐殺事件で、200人余りの社会活動家や農民が犠牲になっています。

こうした人権侵害も甚だしい状況にも関わらず、コロンビアのドゥケ大統領は「民主主義の国」を自任し、親米国家の優等生として、隣国ベネズエラを独裁国と呼んで、恥知らずにも「人権問題」を告発する急先鋒の役割を常に果たしています。



コロンビア発：「ドゥケ（大統領）、僕を殺さないで。僕は卒業したいんだ」と訴えた少年も虐殺の犠牲となった



香港やベラルーシの抗議行動は連日、「民主の女神」、「最後の独裁者」という言葉の刷り込みとともにセンセーショナルに報道されますが、コロンビア警察の非道な弾圧についてはほとんど取り上げられることもなく、ひっそりと黙殺されています。

このように、私たちは何を知らべきか、何に対して怒るべきか、誰かに決められているのではないのでしょうか。

情報を発信していく活動の重要性が改めて問われています。

今後、注目される主な動き

2020年

10月18日 ボリビア大統領選挙

10月25日 チリ憲法改正国民投票

12月6日 ベネズエラ国民議会議員選挙

2021年

2月7日 エクアドル大統領選挙

政治を人民の手に取り戻す闘いーボリビア

クーデターでモラレス左派政権が倒されて10カ月が経つボリビアでは2度にわたり大統領選挙が延期されましたが、人民の怒りの行動で来月18日に行われることが決定しました。

エボ・モラレスの党MASの大統領候補ルイス・アルセ氏は事前のアンケートでは支持率トップを誇っていますが、相手はクーデター政権であり、今後どのような妨害を仕掛けてくるか予断を許しません。また、エボ・モラレス自身も、上院議員選挙に立候補する予定でしたが、中央選管に資格を剥奪され、断念を余儀なくされました。

干渉を排し、対話と和解へーベネズエラ

ベネズエラでは12月6日の国民議会銀選挙に向けて、立候補する政党と候補者の申請手続きが行われています。

「自称大統領」グアイドが所属する「人民の意志」党はボイコットを懸命に働きかけ、グアイドを支持する米国もまた「選挙自体を認めない」と声明を出しています。

ベネズエラのマドゥロ政権は、野党勢力と対話と和解路線を続けながら、外国勢力の干渉への対策として、国連とEUに選挙監視団派遣を要請しましたが、EUは「検討する時間が足りない」として派遣しない意向を伝えてきました。これは、選挙後に「不正選挙だ」として非難する構えとも受け取れるもので、今後の動きを注視していかなければなりません。

こうした中、かつて野党統一候補としてチャベス、マドゥロと2度大統領選を闘ったエンリケ・カプリレスは、「大統領を自称しながら野党リーダーという2つの肩書は両立しない」とグアイドを批判し、新党を立ち上げ、140人の候補者とともに選挙への参加を申請しました。

外からの干渉を排し、国内では粘り強く対話、さらにはパンデミック対策と、ベネズエラの闘いが続いています。

歴史は終わらない



「サンパウロ・フォーラム 30 周年」ビデオ会談

1990年7月、ブラジルのサンパウロに、ラテンアメリカ諸国の進歩的な勢力が集まり、情勢や共通する課題を討議して以降、毎年、サンパウロ・フォーラムが開催されています。

30周年を迎える今年は、7月28日、午後からビデオ会議形式で開催されました。



ニカラグアのオルテガ大統領、ベネズエラのマドゥロ大統領に続き、3番目に発言したディアスカネル大統領は、サンパウロ・フォーラムの歴史的意義と、この日、故ウゴ・チャベス大統領の誕生日であったことにちなみ、ベネズエラ・ボリバリアーナ革命の指導者に敬意を表し、パンデミック禍の中でとりわけ際立ってきている「私たちのアメリカ」の共通する課題とキューバの現状、展望について話されました。

自らの運命は自ら拓く

(以下、発言の抜粋)

帝国主義にとって呪われた絶望を告げる非常に悪いニュースだ。市場偏執狂や一つの考えに凝り固まったスポークスマンの物語はすでに終わっている。フィデルと、ルラ元ブラジル大統領の発想で誕生したサンパウロ・フォーラムで我々、希望ともう一つの可能な世界の不屈の守護者が、歴史的な抱擁からの30周年を祝っているのだから。ソ連・東欧社会主義圏が崩壊し、彼らの墓堀人が左翼的自由主義思想をこの世界の片隅に埋葬するのに精を出しているときにこのフォーラムが創設されたのは、流されていくかに見えた船の舵に加えられた一撃であった。

ラテンアメリカとカリブ地域の革命的、進歩的、民主的な政治勢力は、モンロー主義とこの大陸の彼らの同盟国に対し、我々の人民の解放と統合による左派の団結の正当な協調と建設の場をここにまとめた。歴史の進行を止めることはできない。社会主義思想は、自らの人材と力で帝国の裏庭を緑化した。今日、まさに同志ルラとブラジル労働者党指導部をサンパウロ・フォーラムの事務局を担った功労者としてこの場で認めるのは正しいことだ。今回の開催は、サンパウロ・フォーラムが常にキューバ人民を支え、とりわけ今年になってさらに強化されたキューバに対する経済封鎖の解除要求を支持してくれていることに感謝を述べる機会を与えてくれた。

また、サンパウロ・フォーラムの新しい記念日がキューバの心からの友人で、フィデルがキューバ、そして闘うすべての人民の親友と呼んだウゴ・チャベス司令官の66歳の誕生日と重なった。彼は2012年のサンパウロ・フォーラムの場で、恐れることなく南米の、ラテンアメリカの、カリブの、そして世界の解放の基礎石を置くよう我々に呼

びかけた。チャベスの無敵の模範は、強く、楽観的に、どんなに困難に思えても、今日のベネズエラ、ニカラグア、キューバが証明しているように我々団結した人民に打ち倒せない障害物などないという信念を持って我々に闘い続けることを呼びかけている。

爆弾ではなく医師を！

戦争と介入の恫喝で“暗い世界の片隅”の60か国かそれ以上の人民を屈服させている帝国主義のバカげた行いに対し、フィデルは『爆弾ではなく医師を』と言った。そして今日、地球上で人類の最も困難なドラマが現実になっている真っ只中で、私たちは彼の言葉が確認されるのをリアルタイムで見ている。どんなに強力で、どんなに洗練された兵器も、新型コロナウイルスのパンデミックを終わらせることができなかった。それどころか、かつてなく目に見えて明らかになっていることは、恐怖を与えているのは市場の高揚、制御不能な流行という、新自由主義の冷酷なルールの下で繰り広げられる現実的、非人道的な場面だ。医療システムの崩壊の前になすすべもなく何百万人も命を救えない政府。しかも、それらの政府は、我々を見くびっている残忍な北の帝国主義の超大国の脅威から逃れられていると自負していたのだ。

アメリカ大陸の地域は今やパンデミックの悲しい震源地だ。新自由主義政策を進める多くの政府は、人命より市場を救うことに献身しており、病気がいつ最終的に収束するのか、その可能になるかの予測することさえ困難にしている。ウイルスの拡大は事実であり、最初の100万人の症例に到達するまでに96日かかり、最後の100万人に達するまでは16日しかかからなかったことを考えると新自由主義者らの見通しは全く信用を失っている。彼らに

従う信者たちが望む、望まざるに関わらず、彼らの経済の実験の物語は終焉を迎えつつある。もしくは人類がこの先、生き延びられるかどうかということだ。

すべての人にとって紛れもなくパンデミックの緊急事態にあって、米国政府はこの地域に対する覇権主義的な計画をやめず、モンロー・ドクトリンとマッカーシズムを再度復活させ、左派と進歩的な指導者や組織に対し、武力行使と政策の法制化を促し恫喝している。

毎日、何千何万もの人々が帝国の地で死んでいるときに、ホワイトハウスの住人たちは気に入らない政府に対する継続的に圧力をかけ続け、彼らの利益のために蠢くこの地域のならず者たちを味方につけている。

こうした惨憺たる光景の中、ベネズエラ・ポリバリアーナ共和国に対し帝国主義者が勤しむ干渉行為と国際法の蹂躪が際立っている。正当にして兄弟であるマドゥロ大統領と同国の独立を支える軍民一体組織に我々の連帯を表明するとともに、こうした動きを非難し拒否する。

また、ダニエル司令官が率いるサンディニスタの国の政府、人民、指導者への我々の連帯を再度確認し、ニカラグアの人々の平和、幸せ、正義、開発に対する一方的な強制措置への拒否を表明する。

我々は 2014 年 1 月にラテンアメリカ・カリブ地域の政府及び政権の首脳によってハバナで調印された『ラテンアメリカ、カリブ地域平和地帯宣言』を最も強い思いを持って批准するとともに、未だに植民地の地位のもとに暮らしている人々への借りを返すその日まで、植民地主義の根絶を誓った我々の揺るぎない意志を繰り返し表明する。

我々の辞書に「降伏」はない

謀略にも武力にも決して屈することはない革命と連帯の主権国、マルティ、そしてフィデル、ラウルの祖国キューバの名において、また残酷な大量殺人を意味する世界で最も強大な経済、貿易、金融封鎖の中、今まさにパンデミックとの闘いの中で、我々を飢えと物不足で降伏させようという計画を放棄しない偏執的で病的な封鎖に対し、60 年前、英雄的に誇り高く抵抗した人民を代表して私は話している。

我々は小さく、経済封鎖を受けている国だが、党の指導性のもと、多くの政治的社会的組織、そして人民とともに、過信することなくコロナウイルスをコントロールし、勝利を収めつつある。これは政治の中心に人道主義を据えた社会主義体制の政治的な意欲と、無料で普遍的な医療システム、医療と科学、バイオテクノロジー、製薬の分野の専門家と労働者の知性と協調、献身の成果である。

パンデミックにより 87 人の命が失われたことはキューバにとって非常に残念だ。しかし、子ども、妊婦、医師、医療労働者は一人たりとも命を失わなかったことは救いである。

60 年にわたる科学と革命的医学の蓄積された経験と政府の措置を結合した、我々の医療システム、我が国の科学機関のネットワークの調和した行動によって議論の余地もない成功を収め、コロナ後の段階においては、徐々に段階的、非対称的に生産的かつ社会的な新たな日常に戻る戦

略が承認された。

こうした成果は我々の敵対者たちは気分が悪いようだ。この島国に対する米国の攻撃は、政治と思想の転覆計画やキューバの指導者と我々政府の仕事への信頼を貶めることを目的とした行動、社会的な暴発を生み出し、我が国の各機関に潜む反対傾向を促進する恒常的な試みと並行して強化してきている。

我々は、現代の複雑なメディアの複数のプラットフォーム上で、前例のない凶暴さと訴追のリスクのないよう行動できるよう非常によく計算され、強力な資金にバックアップされた計画と対峙している。しかし我々は驚かない。我々の地域の闘いを混乱させ逸脱させるため日常的に行われている謀略、真実を捻じ曲げ騙す戦略に違いはない。

だが、我々は「降伏」という言葉を彼の政治的辞書から速攻で消し去ったフィデルに連なる人民だ。我々は、あからさまで攻撃的な敵を知っており、フィデルと革命によって培われた連帯の任務から 1 ミリも逸脱することなく、チェが言った通り『我々のささやかな力を必要としている』兄弟的人民を支援し、我々の政治的、社会的方向性を見失うことなく対峙している。

58 カ国でこの病気と闘う取り組みに参加し、現在までに 83,268 人の患者を看護し、13,636 人の命を救った 28,000 人の医療従事者に加えて、自然災害と深刻な伝染病と闘う 45 の国際支援団ヘンリー・リープ隊の 3,772 人の隊員が 38 カ国の地域で活動に加わっている。そのうち 2,399 人は女性である。彼らはすでに 255,000 人以上のコロナウイルス患者を看護し、8,000 人以上の命を救った。

我々の医療専門家たちの利他主義は、自国の市民の感染が招いている重大な事態に対処する代わりにキューバの医療支援への信頼を失わせるキャンペーンを繰り返している帝国主義を困惑させている。

私たちの専門家によって展開され、世界中の何百万人も感謝と賞賛、認識を喚起している命のための人道的な事業を破壊したり、忘却の中に埋葬したりすることはできない。というのは、地球上で多くの人々が『キューバのヘンリー・リープ隊にノーベル平和賞を』キャンペーンを促進するため活動しているのだから。

闘おう！生き続けよう！勝ち抜こう！

闘いの中で際立っているのはベネズエラのポリバリアーナ革命、ニカラグアのサンディニスタ革命、キューバ革命の間の兄弟的連帯である。3 つの革命は命を救うこと、人民の幸せを追求することに専念する政権とともにある。3 つの革命は帝国主義の残忍な猛攻と北の大陸と関係を持つ新自由主義の右翼たちに立ち向かい、困難な状況の中、統合と強固な意志でポリバルとチャベス、サンディーノとカルロス・フォンセカ、マルティとフィデルの祖国の独立と主権、尊厳を守り抜いてきた。国際協力と国際連帯だけが、世界史に前例のない危機から人類を救う。フィデルがラテンアメリカとカリブの革命家に遺した計り知れない模範の中で、私たち人民の闘い、私たちの党と運動にとって決定的となった 2 つのことが際立っている。それ

は団結と国際主義だ。彼の遺産に忠実に、置かれた困難な現実を前に、キューバ人民はラウル・カストロ・ルス将軍によって予め計画された路線を考慮しながら豊かで持続可能な社会主義を建設し続けている。

フィデルの恒久的な教えは、人間は最も厳しい条件下であっても勝ち抜くという意欲を持ち続けていれば乗り越えられるということだ。時々の状況を正しく評価し、正しく崇高な原則を放棄しないということだ。

キューバから、我々は独立と主権の道の主役である人民に連帯し歩み続ける。パンデミックも、経済封鎖も、帝国主義の弾圧も、我々の進む方向を変えさせることなど断じてできない。

新たな課題に立ち向かうため、社会的大衆運動と左翼の知識人とともに、団結して行動しよう。

『私たちのアメリカ』の真に決定的な独立は、我々の現在の闘争の性格、強さ、大義にかかっている。我々はサンパウロ・フォーラムとともにラテンアメリカとカリブ諸国の団結と統一に貢献する。

歴史は他の者が書こうが、作るのは人民だ。断ち切られる鎖、取り壊される壁、搾取と収奪との闘いある限り、帝国主義はこの結末を決めることはできない。

我々人民の命と独立のために、どんなに厳しい状況にあっても我々の先人たちは乗り越えることができると教えた。乗り越えることができる！乗り越える！

我々に続く未来の世代のために！
勝利の戦術、戦略である反帝国主義のために！
闘おう！生き続けよう！勝ち抜こう！



セニョリータのキューバ & ラ米★ウォッチ

配信ご希望の方はこちらのアドレスにメール下さいね！
jvccpf@rmail.plala.or.jp

Tweets ではないつぶやき

- ・「自助、共助、公助」という文言を目にする。これは国のトップが言うことではないだろう。ましてや今か！言うとしたら順番が違うだろうーと思うが。
- ・この言葉の由来とされる上杉鷹山（米沢藩主）は、「自助」のための産業育成政策をとった。今、押しつけられた「自助」の結果が貧困層の増大だ。コロナ禍で自殺者が急増している。「トリクルダウンは起こらなかった」とシレーツとしている輩が管政権でも幅を利かせている。大企業の内部留保金増大はどこから流れてきたのか。
- ・GDP に占める日本の2019年教育予算はOECD 諸国(35か国)では最下位だ。現在、大学生の奨学金率は半数と言われそのほとんどが貸与型で「借金」だ。コロナ禍で無為政府となった安倍政権。コロナ禍でIT 後進国をさらけ出した日本。この無為政府を引き継ぐのが菅政権だ。
- ・キューバの医療制度の基本は予防医学だ。まず生存と尊厳のため国民は最低限の健康を担保される。資本主義の臨床医学は、臨床分野での研究開発が人類一般に利するだろうが、現状は「持てる者」のものでしかない。その証左に、アメリカのコロナ禍での黒人死亡率は白人の倍だ。。(編集子：AK)

CUBAPON は駐日キューバ大使館からの呼掛けを受け、大使館サイトに以下のようなフィデルとの思い出を投稿しました。(サイト：『日本でキューバ』より)

フィデル・カストロ生誕94年にあたって

キューバの「特別期」にあたって、友好と連帯を掲げた訪問団が1993年12月実施され、それを受け1994年7月30日に日本キューバ連帯委員会(通称：CUBAPON)が結成されました。

結成間もないCUBAPONに当時の駐日キューバ大使館の富田君子さんから電話がありました。1995年12月10日か11日のことです。「フィデルが12日来日するので歓迎出迎えに成田空港へ行ってくれないか」とのこと。急な話で、歓迎出迎えと言っても何をしたいかわからず、急遽、模造紙やポスターカラーを買い、手作りでキューバ国旗を作りCUBAPONメンバー2人が成田空港に出向きました。ところが非公式の訪日ということかどうか(?), 通常の一般出口ではありませんでしたので、アタフタして何とか出迎えに間に合いました。当会のメンバー2人(女性)はハグされて光栄で舞い上がっていましたが、如何せん我がメンバーは大変小柄で、大使館からいただいた写真には大きなフィデルの背中しか写っていませんでした。(この背中の向こうに私がいるのヨ)と話に花が咲きました。

フィデルが初めて日本の土を踏んだ時に出会えたことはCUBAPONのこれまでの活動のおおきな糧になっています。

このご縁か、フィデルが逝去された時、CUBAPONの「キューバ平和友好訪問団」はキューバに滞在しており、25日はビランのフィデルの生家とサンチャゴでサンタ・イフィヘニア墓地(ホセ・マルティ廟の近くにぽっかりと空いた区画があり、フィデルが亡くなったら埋葬される予定とのことでした)を訪ねていました。ハバナで26日予定していたICAP訪問は急遽弔問となりました。

アリシア ICAP 副総裁(当時)は「**CUBAPON が弔問に訪れた最初の外国の友好団体**です」と挨拶されました。キューバ国民に敬愛されていたフィデルを偲ぶキューバ滞在となりました。

2020年8月13日
日本キューバ連帯委員会(CUBAPON)



好評発売中

経済封鎖下を生きる
カリブの社会主義 Vol.21

革命60年のキューバを記録したレポート集です。ぜひお求め下さい！

頒価 800円(送料込)
A5版 73頁

